

(記)

平成 29 年度 (第 12 回) 日本電気泳動学会国際交流奨励賞 (橋本賞)

栃木県立がんセンター骨軟部腫瘍・整形外科科長

菊田 一貴 先生

受賞課題名 :

「粘液線維肉腫浸潤性関連候補タンパク質同定のための蛍光 2 次元電気泳動法を用いたプロテオーム解析」

私は日本電気泳動学会にて、“DCBLD2 is a novel biomarker of myxofibrosarcoma invasion identified by global protein expression profiling” というテーマで、平成 29 年度日本電気泳動学会国際交流奨励賞 (橋本賞) を受賞させて頂きました。国際交流奨励賞 (橋本賞) は、1999 年に第 4 代橋本信也会長の下で開催された国際電気泳動学会の組織委員会、および橋本先生より寄贈された本学会国際交流奨励賞基金を原資として制定された賞で、本賞は日本電気泳動学会総会で発表された演題の中から選考され、国際的な学会での発表に値する業績をあげた研究者に対して与えられるものです。そのため、私の使命は受賞させて頂いた賞をもとに自身のテーマを国際学会で発表することにあります。

私が受賞したテーマは悪性新生物の中でも非常に患者数の少ない肉腫の研究であります。肉腫は発症数が非常に少ないため、希少がんの一つとされており、研究基盤の整備構築が難しい分野ではありますが、実臨床では、新規の診断 治療法を求める患者さんの声が非情に高まっています。私のテーマは、粘液線維肉腫 (Myxofibrosarcoma) という、中高齢者に好発する悪性軟部肉腫であり、極めて高い浸潤能を有します。この高い浸潤能により、外科的切除後の高い再発率が臨床上の問題となっており、本腫瘍に対する浸潤能に関わる分子の解明は新規診断法、および治療法開発のために非常に重要です。しかしながら悪性軟部肉腫は希少がんであることから、研究を遂行するための十分な基盤がなく、現在まで本腫瘍の浸潤性関連分子を同定するような研究は皆無でした。今回の研究により、本腫瘍の浸潤性機構に関わる分子の一つが明らかとなり、この結果は、本腫瘍の今後の新規診断法や治療法開発のための大きな手がかりになることが期待されます。

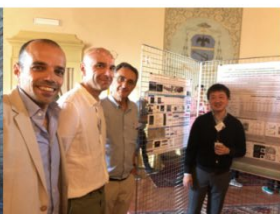
私事で恐縮ではございますが、2018 年 4 月から 2018 年 6 月まで希少がんである肉腫に対するヨーロッパの著名な治療施設であるウィーン大学附属病院 Allgemeines Krankenhaus (通称 AKH) で学ぶ機会を頂きました。この機会を利用して、イタリア、ボローニャで 2018 年 5 月 31 日から 2018 年 6 月 2 日まで開催された EuSARC2018 (The Biology of Sarcoma, A Residential Workshop) に参加させて頂きました。本学会は、やはりヨーロッパにおける肉腫の中心的な役割を示す施設である Institute Orthopedico Rizzoli が主催した学会であり、ヨーロッパ各国のみならず、米国からも肉腫研究に携わる多くの研究者が集まりました。本学会は、Centro Residenziale Universitario di Bertinoro

(Ce.U.B.), Bertinoro (FC), Italy という古城のような研修施設を利用して泊まり込みで開催される学会であり、2泊3日、研究者が時間を共にし、肉腫に対する Increase knowledge (To provide a forum to increase knowledge in sarcoma biology and pathophysiology in order to offer a more effective patient care), Fill the gap (To fill the gap between biological and clinical research), Network (To establish and consolidate a network of scientists who are keen to collaborate in the field of sarcoma), Promote actions (To promote actions to encourage and support in-training scientists in sarcoma research), Raise public awareness (To raise public awareness on the clinical relevance of sarcomas and the importance of promoting sarcoma research) を目指して開催されました。本学会において、橋本賞で受賞させて頂いたテーマをポスター発表させて頂く機会を頂きましたのでここに報告をさせていただきます。発表の詳細は、電気泳動 61(2) 2017;132- 136 に掲載されております。本学会の参加者の中で日本人、さらにいえばアジア人は私一人でありましたが、欧州の肉腫研究者に研究テーマに対して、非常に興味を持って頂くことができ、一時的ではない今後の交流につながる欧米の研究者との関係を構築することができました。

今回の受賞、このような貴重な経験をさせて頂けましたのも、また自身の研究を世界にアピールする機会を頂きましたのも、日本電気泳動学会に関わる全ての先生方のご支援によるものと強く感じております。末筆ながら、日本電気泳動学会に関わる全ての先生方に心より深謝申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



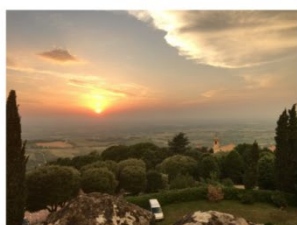
学会参加者との集合写真



ポスター発表の様子



Institute Rizzoli の先生たちとの Dinner 学会場の様子



学会場から見えた夕陽